

# バイナリファイル閲覧機能

グレイスケール画像として正しくインポートできないJPEG ファイルをもらったとしましょう…

ファイルを調べるとそのファイルは Adobe Photoshop で作られたことが分かります。

Photoshop で開くと、その JPEG は標準ではない CMY カラー空間を使用していたことに気がきます。

標準の JPEG ファイルの仕様では CMY カラーはサポートされていません。

JPEG ファイルを Photoshop で標準の RGB カラーで保存すると、正しくインポートできます。

TNT 製品を使って様々なソースの地理データを取り入れて使ってゆく際、不明なファイルや標準でないフォーマットのファイルに出くわすことがあります。ソース情報は「Excel のファイル」と言われても、実際は

“標準”と言われるフォーマットが正常にインポートできない場合、大抵、不適当なエクスポートや変換ユーティリティによって標準でない要素が入り込んでしまったのが原因です。

Excel ファイルではなく、インポートもリンクも正常にできないことがあります。実際は dBase か CSV や Access ファイルかもしれません。

標準的なフォーマットのファイルが動作しない多くの場合の原因は、誤ったエクスポートや変換ユーティリティによって標準でない要素が入り込んでしまったためです。あるプラットフォームから別のプラットフォームへファイルを移動すると(例えば、Mac から

UNIX そして Windows へ)、ファイルが壊れることがあります。元々の仕様に適合しないフォーマットで他のソフトウェアからエクスポートされているということもあります。

ファイルの内容を見ることができなければ何が問題なのか知ることは難しいでしょう。なすべきことは、正常に動作している同じフォーマットのファイルの内容と比較しつつ、問題のファイルの内容をよく調べることです。すぐに見つかるのは、レコードの末尾によけいな改行文字が入っていたり、レコード長が想定される長さでなかったり、バイトオーダーが反転していたりする場合です。

問題を特定するには [バイナリファイル閲覧機能]([ツール]->[その他])を使います。そうすると問題解決の道が見つかるでしょう。不正なフォーマットのファイルの構成や特徴をよく理解しながら、インポート処理を使いましょう。

不明ファイルの中身を正常な動作が確認できている同じフォーマットのファイルの中身と比較します。別のデータタイプやフォーマット、バイトオーダーの設定を試してみましょう。

データタイプ	フォーマット
ASCII	Binary
EBCDIC	Octal
Unsigned 8 bit	Hexadecimal
Signed 8 bit	Decimal
Unsigned 16 bit	
Signed 16 bit	
Unsigned 32 bit	バイトオーダー
Signed 32 bit	Intel (lo-hi)
IEEE 32 bit float	Motorola (hi-lo)
IEEE 64 bit float	
VAX 64 bit float	

レコードの末尾によけいな文字がついていないか(または欠落していないか)、バイトオーダーが逆でないか、不適当なエンコード、ヘッダの消失、データの明らかな破損、などを搜してみましょう。単純な問題であれば、見ればすぐに自分で解決方法が分かるかもしれません。単純な問題でなければ、「バイナリファイル閲覧機能」の結果を持って、マイクロイメージ社や他のベンダーに相談しましょう。